

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井 一彦	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.15	研究室に、今年度最終学年に在籍する博士前期課程の大学院生が1名所属しているため、期間内での学位取得修了を目指し、教育を行う。			0.15	研究室所属の、今年度最終学年に在籍する博士前期課程の大学院生1名を指導し、期間内で予定通り修士学位を取得させた。また、本学理工学研究科と台湾の2国立大学共同開催の、大学院生を受講生としたサマー・スクールのコーディネーターとなり、瀬底研究施設でサマー・スクールを開催した。		
研究	0.55	サンゴ礁の生態および保全生物学の研究を、野外調査・実験および水槽実験で推進し、今年度内に5編の学術論文を査読ありの雑誌に出版または受理されることを目指し、研究を行う。科研費基盤A一般と学術振興会二国間交流事業共同研究の採択を目指す。			0.55	査読ありの雑誌に、5編の学術論文が出版または受理された。科研費は不採択であったが、米国モーレアサンゴ礁長期生態学的研究プロジェクトおよび沖縄科学技術大学院大学と共催で、サンゴ幼生定着の国際ワークショップを実施し、現在ワークショップ成果として2編の論文を投稿中である。		
社会貢献	0.10	サンゴ礁の保全に関して、地域社会の要請に応じて講演会などを引き受ける。JAICA研修に講師として参加し、国際交流にも貢献する。国や県のサンゴ礁保全関係の委員会の委員を、可能な範囲で引き受ける。			0.05	サンゴ礁の保全に関して、沖縄県3件、環境省関連1件の検討委員として、社会貢献活動を行った。また、地域社会でのサンゴ礁関係の講演2件と、JAICA研修の講師を1件実施した。		
管理運営	0.15	熱帯生物圏研究センターおよび同瀬底研究施設の管理運営に積極的に参画し、同センターおよび施設での研究教育環境の整備を目指す。			0.20	熱帯生物圏研究センター副センター長として、中間評価及び琉球大学理系ミッションの再定義において、センター長を補佐した。また、瀬底研究施設長として運営に当たり、長年の課題となっていた諸問題を解決した。		
進路指導	0.05	今年度修了予定1名の大学院生に対して、就職活動などの指導および支援を行い、最低限修了後無職とならないようにする。			0.05	今年度修了予定の大学院生1名はインドネシアからの留学生であり、終了後は母国で教職に就くことが決まった。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城秀之	所 属	熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.10	年度途中採用(5月1日)のため、今年度は科目担当がないが、臨海実験所としての野外実習プログラムなどに積極的に貢献する。		0.10	年度途中採用のため科目担当はなかったが、公開臨海実習(東大と共同開催)およびサマープログラム(国立台湾大学他と共催)の実習を担当した。次年度は科目を開講し教育にも大きな比重を置く。	
研究	0.80	科学研究費(基盤C)を獲得したので、計画的に研究を遂行する。また、その他の競争的外部資金の獲得にも努める。		0.80	外部資金として、科研費基盤Cの研究を今年後から開始した。また、公益財団法人 自然保護助成基金を獲得し調査研究を行っている。今年度は相対的に研究の比重が大きい。次年度は教育や管理運営に必然的に関わることになる。	
社会貢献	0.05	熱帯生物圏研究センター職員として、および瀬底研究施設職員として様々な社会貢献活動に貢献する。		0.05	センターの市民公開講座・展示で講演し、展示ポスターの説明等を行った。NHKニュースにコメントあるいは写真提供を行った。宮崎MRTの特別番組に出演した。また協会での報告会に外部アドバイザーとして貢献した。沖縄高専学生他のインターンシップ対応を実施した。学会の評議員も務めている。	
管理運営	0.05	主として瀬底研究施設の管理運営に取り組み、施設長をサポートすると同時に施設教職員との連携を深める。		0.04	センター業務としての審査等(TBRCプロジェクト、公開講座、共同利用研究)に関わった。施設業務として、施設長代理としての臨海臨湖所長会議への参加や見学者対応を行った。次年度は施設長の予定なので、管理運営にも大きな比重を置く。	
進路指導	0.00	施設を利用する学生へは、教育研究だけでなく進路指導を含めたアドバイスやコメントを提供する。		0.01	年度途中採用のため所属学生はいないが、他研究室の学生には色々声かけを行った。得た採用情報なども提供した。次年度は院生等の進路指導にも積極的に取り組む。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		守田 昌哉	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	博士課程の大学院審査を受け、学生の受け入れ資格をえる。学部学生対象の実習では、ポイントを抑えた講義と実習を行い、学生の心に残るものにするように努力する。		0.20	公開講座を担当し有意義な実習を行った。アンケート結果を見る限り、学生の印象に残るようである。	
研究	0.40	魚類の配偶子に関する論文を2本出版する。サンゴなどの研究に関する外部資金を調達を目指す。		0.40	魚類に関する論文を共著で3編出版した。	
社会 貢献	0.10	タンガニイカ湖調査チームの研究集会および調査隊維持に関与する。さらに、ザンビアに赴き現地で調査を1-2ヶ月行う。		0.10	調査を日本動物学会の将来計画委員を担当した。タンガニイカ湖で2ヶ月調査を行った。	
管理 運営	0.10	瀬底研究施設の施設運営積極的に関わる。具体的には、機器の維持管理などに積極的に関わる。		0.10	施設運営に関わり、機器の維持などに努めるよう心がけた。	
進路 指導	0.20	新たに来る学生の指導を1)研究遂行に必要な知識と実験技術を教える、2)学生の自主性を促すような指導を行う。そのための学生と良好な信頼関係を得るように努力する。		0.20	学生に研究の意義や背景、そして研究を具体的に遂行するための手法などを丁寧に伝えた。良好な関係を維持していると考えられる。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		徳田 岳	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	「分子生命科学入門」を通じて、共通教育に参加する。また、理学部および理工学研究科専門科目の講義・実習を通じて理学部学部生ならびに理工学研究科大学院生の教育にも携わるとともに、大学院生の教育研究指導を行う。		0.30	「遺伝子の話」を通じて、共通教育に携わった。また、理学部専門科目の講義および実習を担当し、理学部学生の学部教育にも携わった。さらに大学院理工学研究科博士前期および後期課程の講義を担当するとともに、大学院生の研究指導を通じて大学院教育に携わった。	
研究	0.35	学内外の共同研究者と共に最低1報の研究論文の採択を目指す。競争的研究資金など外部資金の獲得を目指し、研究環境の整備・充実を図る。		0.35	平成25年度は査読付き原著論文3報、英文総説1報を発表した。また、外部資金獲得に関しては助成金を1件獲得したほか、平成26年度分も1件獲得した。通常の学会発表に加え、新聞を活用した成果発表も行った。	
社会貢献	0.10	ホームページや市民公開シンポジウムを通じて、地域への情報発信を行う。沖縄生物学会役員(会計監査委員)としての活動を行い、地域社会への大学や研究機関における研究成果の還元に貢献する。		0.10	熱生研の公式HPの維持管理を行い、熱生研の活動を地域社会に情報発信した。また、市民公開シンポジウムに参加してポスター展示を行い、地域への情報発信を行った。さらに沖縄生物学会役員としての活動に加え、日本蚕糸学会九州支部委員として活動した。	
管理運営	0.20	分子生命科学研究施設のレイアウト委員としての活動やオープンキャンパスなどの活動に積極的に関与すると共に、試薬管理システムの維持管理に努める。また、全学遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会委員としての活動を行う。		0.20	分生研のレイアウト・施設公開実行委員長、熱生研広報委員長として活動した。また、理工学研究科OIMAP運営委員として特別プログラムの策定と運営に携わったほか、全学の化学物質管理専門部会や遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の委員として化学物質や組換え生物の適切な管理に努めた。	
進路指導	0.05	大学院生より進路に関する相談があった場合には、随時相談に乗るなどして適切な進路指導を行う。		0.05	随時大学院生の進路相談に乗り、適切な進路指導に努めた。その結果、指導学生の2名の博士課程進学(他大学も含む)が決まった。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		屋 宏典	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.15	大学院専門科目(遺伝資源応用学特論、先端応用生命科学特別講義)を担当し、大学院教育に寄与する。		0.15	大学院専門科目(遺伝資源応用学特論及び先端応用生命科学特別講義)を担当した。遺伝資源応用学特論についてはビデオを用いることにより、授業への興味を喚起する努力をした。目標を達成したと判断している。	
研究	0.30	大学院博士課程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金を獲得し、関連企業との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。		0.30	学生との共著論文6編(内1編は第一著者)を国際誌に掲載することができた。民間との共同研究3件を実施し科研費以外の競争的研究経費1件を獲得した。目標を達成したと判断している。	
社会貢献	0.10	県或いは関連外郭団が主催する委員会の委員を努める。また、資源利用に関する研究会(南方資源利用技術研究会)の運営に関わり、企業-大学連携の促進に貢献する。日本栄養・食糧学会の理事として学会運営に貢献する。		0.10	日本栄養・食糧学会評議員、日本農芸化学会評議員、南方資源利用技術研究会理事、技術開発支援制度審査委員(内閣府)として相応の役割を果たした。また、日本栄養・食糧学会の理事として学会運営に相応の貢献をした。目標を達成したと判断している。	
管理運営	0.40	熱帯生物圏研究センター長として円滑なセンター運営を行う。、教育研究評議会評議員として大学運営に貢献する。		0.40	熱帯生物圏研究センター長として、円滑に組織運営ができたと判断している。目標は達成したと考えている。	
進路指導	0.05	指導下にある修士・博士学生の進路について、早い時期に学生と協議し円滑な進路決定ができるよう努める。		0.05	修士1名の修論が完成に至らなかった。目標は達成できなかった。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩崎公典	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.10	共通教育科目の講義では、テキストマップ形式の穴埋め式プリントを用いた講義を行う。研究室の学生の指導においても、留学生の比率が大きくなっていることから、出来る限り英語による教育、指導を心がける。			0.10	学部担当科目に関しては、レポートの内容から、概ね適切な講義が行えたものと判断している。研究室の学生指導に関しては、留学生を含め適切な指導を行えたものと考えている。		
研究	0.60	研究成果を学術誌に投稿するとともに、国際学会での報告発表を目標とする。現在進行中の研究が新たな研究領域への発展を見せているため、さらに効率的に進めるための外部資金の獲得を目指す。			0.60	研究代表者としての科研費採択には至らなかったものの、鹿児島大学大学院連合農学研究科の若手研究者支援プログラムに採択された。研究成果を学術誌の学術誌投稿に関しては、投稿はしたものの不採択であったため、現在別の雑誌への再投稿の準備中である。		
社会 貢献	0.10	共同研究を通して、専門技術を要する動物実験による機能性評価や活性測定などを行い、企業製品の付加価値の向上を技術面からサポートする。施設公開や、市民公開講座を通して、研究成果を広く地域に公開する。			0.10	企業や、県組織をふくむ外部組織との共同研究を通して、機能性食品の高付加価値化に貢献した。施設公開や、市民公開講座を通して、研究成果の概要を広く地域にアピールした。		
管理 運営	0.05	所属施設の安全衛生委員として活動する。センター共通分析機器の運用責任者として活動する。			0.05	所属施設の安全衛生委員、学内化学物質管理システムワーキンググループオブサーバーとして活動した。センター共通分析機器の運用責任者として活動した。		
進路 指導	0.15	就職活動を希望する学生に対しては、希望に応じて就学時間内の就職活動による研究の停滞を軽減する措置(居残り実験や休日実験がしやすい環境整備)を心がける。			0.15	今年度は就職を希望する学生が居なかったため、プライベートと学業の両立を支援できるような指導を心がけた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		渡部久実	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	非常勤講師としての医学部の授業科目(寄生虫学講義・実習、免疫学講義)の一部を担当し、CBT(Computer Based Testing)の基準を満たす講義を行う。また、医学部の協力講座として4年次学生の基礎研究を担当する。大学院医学研究科博士課程講義(感染生物学概論、感染免疫制御学特論、感染免疫学演習、感染免疫学実習)では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている基礎科学研究を重視し、地域特性を踏まえた普遍的意義の高い研究の一端を担ってもらう。			0.20	医学部及び医学研究科の講義・実習では、目標どおりの成果を挙げたものと考えられた。また、医学部学生3名の基礎配属研究(4年次学生)をも担当し、基礎研究、特に熱帯感染症制圧の重要性を認識してもらった。当該分野所属の1名の博士課程大学院生(D3)には、「感染免疫と栄養」に関する学位論文課題に取り組むと共に、当該分野の他の研究課題をも担当し着実な成果を積み重ねてもらった。		
研究	0.40	ポスドク研究員、大学院医学研究科博士課程の学生及び共同研究者(琉球大学及び他大学)と共に、研究成果の海外学術雑誌への投稿・採択及び関連ある国内外の学会での発表を行う。現在、数編を投稿準備中である。当該教員の研究分野は海外フィールドを用いての研究が主体となっていることから、国内外の研究者との連携を強固にし、研究を遂行する。関連する分野の外部資金については、文部科学省管轄だけでなく沖縄県及び民間企業からの資金獲得を目指す。			0.40	当該分野及び共同研究の成果としては、国際雑誌に2報が掲載され(最終・責任著者1編、最終著者1編)、他3報(最終著者2編、最終・責任著者1編)を投稿準備中である。特に国際共同研究(東南アジアのマラリアとHIV/AIDSの制圧)に関する成果は、国際シンポジウム(日本、ラオス)と国際学会(タイ)で共同演者として発表を行った。		
社会貢献	0.30	研究課題(東南アジアの国境マラリア制圧に向けての住民の血清・分子疫学的調査・研究)に関し、中期目標に掲げられている国際社会への積極的な貢献するために、東南アジア諸国(ベトナム、ラオス)との国際共同研究を進める。このような国際連携については、文部科学省の長崎大学熱帯医学研究拠点特定領域共同研究及び平成25年度沖縄県「沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業」の分担研究者として積極的に参加する。また、琉球大学発のベンチャー企業の代表取締役として、琉球大学、国立国際医療研究センター研究所、京都薬科大学との産学連携活動をも推進する。			0.30	本年度の国際共同研究課題(マラリアとHIV/AIDS制圧)に関しては、ラオス国首都ビエンチャン及びサバナケット県に3回、ベトナム国クワンチ省に4回訪問し、保健省・県(省)保健局での研究打ち合わせと現地での調査・研究を実施した。また、平成25年度沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業である「ワクチンおよびアジュバントの研究ネットワーク活用型研究開発」の分担課題「国際医療貢献を目指したアジア地域での研究ネットワーク基盤構築」を担当し、その研究成果を積み重ねてきた(国内共同研究機関は国立国際医療研究センターと京都薬科大学)。		
管理運営	0.05	医学研究科学務委員会、医学部病原体等安全管理委員会、琉球大学動物実験委員会及び琉球大学利益相反マネジメント委員会の委員として、各委員会活動に積極的に参加する。また、熱帯生物圏研究センターの一員として、当該センターの管理・運営・広報活動に努める			0.05	年度8回回の海外出張等に伴い会議への欠席も多々あったが、出来るだけの管理運営へ貢献を行った。特に医学研究科学務委員会では医学研究科の中期計画の重点目標達成や大学院生リクルートの為の医学研究科説明会の開催に関して積極的に取り組んだ。		
進路指導	0.05	大学院博士課程学生には、昨年度より導入されたインターンシップ制度を活用し、研究を通して将来の進路に具体的に取り組めるように指導すると共に、琉球大学大学院博士課程学術研究優秀者やティーチングアシスタント・リサーチアシスタント雇用等への申請を積極的に進める。			0.05	本年度は終了予定の大学院生が居なかった為、学生への経済的援助に積極的に取り組んだ。その結果、ティーチングアシスタント・リサーチアシスタントとしての雇用を確保できた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松井 徹	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	工学部担当科目(環境衛生工学)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を継続して行う。大学院講義(衛生工学特論、Sanitary Engineering, Environmental Biotechnology)では、英語での講義を行う。学部学生、大学院生に関し、それぞれの立場に応じて研究室において必要な役割を教育する。			0.30	工学部担当科目、英語での大学院講義を継続して行った。学外からの依頼により筑波大学にて非常勤講義を実施した。		
研究	0.30	大学院卒業生、非常勤技術職員と共に研究論文の採択を目指す。継続中の共同利用研究に関して論文等の具体的な研究成果を目指す。独自菌株の次世代DNAシーケンサによる網羅的ゲノム解析を継続し、機能解析の新たなアプローチを試みる。公募、企業との共同研究により積極的に外部資金を獲得し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.30	原著論文4件(筆頭2件、責任著者3件)を投稿採択された。内1件は卒論生OBの業績を含むものである。他大学との共同利用研究1件、企業との共同研究1件を実施した。科研費研究を継続実施し、成果を2報投稿中である。スペイン研究者と変異株微生物ゲノム解析について共同研究を開始した。		
社会貢献	0.10	研究会幹事、委員として県内外の研究指針に関わると共に、マッチングフォーラムなどに積極的に参加し、一般への研究アピール、技術支援を行う。			0.10	県内委員を継続的に実施し、研究紹介のための市民公開講座に参加した。マッチングフォーラム等の研究紹介の機会は得られなかった。		
管理運営	0.30	発明審査委員会等の委員会活動に積極的に参加すると共にセンター内研究環境改善のための提案を行う。			0.30	発明審査委員会等の月例委員会にはすべて出席した。エコクリーン活動推進のために節電対策委員会を立ち上げ、学内光熱量モニタリングサイトを活用した現状把握と対策に関する報告書を提出した。		
進路指導	0.00				0.00			
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新里尚也	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.10	共通科目「遺伝子の話」について、講義内容の見直しを行い、図表等を多様したわかりやすい講義を実施する。講義のアンケートで理解度を評価し、全く理解できなかったとする学生が極力でない講義を目指す。		0.10	図表をより理解し易いものに刷新し、補足のスライド等を追加して分かり易い講義を行った。講義の理解度を自己採点するアンケート結果は72.5点(100点満点)であり、まずまずの評価であった。	
研究	0.65	海綿の微生物相解析の結果等に関する、自らが執筆する共著論文2報以上の投稿を目指す。また研究資金面では、積極的に競争的資金に応募し、1件以上の資金獲得を目指す。		0.65	共著論文が3報出たが、海綿微生物相の論文は投稿準備中である。研究資金としては、科研費のゲノム支援1件、学内の科研費インセンティブ経費を1件獲得した。その他、今年度より経済産業省PJに分担者として参画した。	
社会貢献	0.10	研究事業やインキュベーション施設の運営・推進委員として沖縄県の科学技術振興に貢献する。また、次世代シーケンサーの技術交流会をとおして沖縄県のゲノム研究レベルの向上に寄与する。その他、インターンシップの受け入れ等を通じた地域社会への貢献も積極的に行う。		0.15	知的クラスター事業の推進委員として、沖縄県の科学技術振興に貢献した。また、次世代シーケンサー技術交流会の世話人として、ゲノム研究レベルの向上に努めた。学会主催の公開シンポジウム・セミナーで3件の講演を行った。本年度のインターンシップ受け入れはなかった。	
管理運営	0.10	ギガシーケンサーの機器運用に関わり、円滑な解析に貢献する。レイアウト委員やオープンキャンパス準備委員としての仕事を通して、分子生命科学施設の研究施設の管理運営に積極的に参加する。		0.10	ギガシーケンサーについては、機器トラブルが若干あったものの、年間とおして安定した解析が実施され、シーケンサーを活用した論文も3報掲載された。施設公開や市民公開講座も広報の工夫により例年以上の参加者を記録した。	
進路指導	0.05	学生の研究や進路について相談される機会があれば積極的に関わり、本人の希望と適正に合った就職、進学先へ進めるように努力する。		0.00	本年度は学生の受け入れがなかった。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高相徳四郎	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育(理工学研究科)に参加し、亜熱帯植物の特徴を講義に取り込む。 ・学生から講義内容の希望を聞く。 		0.05	目標設定に沿った活動をした。	
研究	0.65	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも2編の論文を学会誌へ投稿 ・外部資金の獲得に努める。 		0.25	論文を投稿できなかったので目標は達成されていない。ただし、沖縄タイムスに理科教科書問題の寄稿をした。在来植物問題も掲載される予定。科研費に申請した。	
社会貢献	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・教育用図書についての助言をする(25年度文部科学省・教科用図書検定調査審議会専門委員)。 ・学外の各種調査、研究会等へ積極的に参加する。 ・小中学校・高校で様々な形態の出前授業を行う。 ・地域住民(一般)を対象に、植物学の授業を行う。 		0.65	専門委員としての業務を遂行した。西表に調査に来た研究者に採集面等で協力をした。沖縄生物高校教師を対象とした講演をし、沖縄産業まつり等で展示発表をした。西表の自然環境の保全について地域住民、環境省、林野庁と連携して活動をした(ヤマネコ交通事故対策会のメンバーとしての活動を含む)。	
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯生物圏研究センターの運営に関する職務(教員選考委員会への参加等) ・理工学研究科に付随する運営職務 		0.05	目標設定に沿った活動をした。	
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		内貴章世	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.10	西表研究施設において担当する予定の集中講義・実習において、生物多様性の理解を指導を行う。		0.05	担当予定の集中講義・実習のうち、1つは台風で実施中止となった。もう1つに関しては来年度への課題を見いだすことができた。	
研究	0.60	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金による研究を推進する。 ・国内外の研究者との共同研究を行う ・学会、学術誌において研究成果を発表する。 ・外部資金獲得に取り組む。 		0.70	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金による研究が2つの植物グループで推進できた。 ・2つのテーマに関して、国内の研究者との共同研究を進めることができた。 ・1件の研究成果を学会で報告し、1編の論文(共著)が査読付き学術誌に掲載された。 ・新たな外部資金獲得に向けた取り組みを行うことができた。 	
社会貢献	0.20	竹富町、西表野生生物保護センターと連携した外来種対策、希少種保護の取り組みを進める。		0.15	林野庁および西表野生生物保護センターと連携した外来種対策、希少種保護の取り組みを始めるきっかけを作ることができた。	
管理運営	0.10	熱帯生物圏研究センター内委員の役割を果たす。		0.10	熱帯生物圏研究センター内委員の役割を果たすことができた。	
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		渡辺 信		所 属		熱帯生物圏研究センター		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.15	西表研究施設における長期集中講義及び実習を3つ実施する中で、以下の事項に関し、十分な学生の理解を促す。(1)サイエンスの中心より広がるユニバース(教育)の中における熱帯森林学の位置づけ。(2)分子生物学から生態学迄手段を選ばない研究アプローチ手法。				0.15	三つ予定していた学生実習のうち一つが台風の影響により中止。教育目標は二項目とも概ね達成した。受講生のアンケート評価は概ね5段階中の5。(0.13点)				
研究	0.45	(1)科研費(B)研究の円滑な推進。(2)IF付き国際学術誌にファースト若しくはコレスポンディングオーサーとして研究論文を3本執筆する。(3)競争的外部資金の新規獲得。(4)今年度実施する2つの共同利用研究並びに国内客員研究員との共同研究の円滑な推進。				0.45	(1)は概ね計画通り進行中。(2)コレスポンディングで1本のIF付き国際学術誌に掲載。共著で2本のIF付き国際学術誌に掲載。(3)メンターとして奨励研究費を獲得。更に科研(A)、萌芽研究の分担として計3件の申請中。(4)共同利用研究は概ね目標を達成し、IF付き国際学術誌に1本掲載予定。(0.4点)				
社会貢献	0.10	竹富町への教育を中心とした協力。林野庁関連委員会の委託委員。各種Peer Reviewへの協力。様々な外部機関から依頼のある教育実習及び研究調査の対応。				0.10	林野庁の委託委員、竹富町への各種協力活動、Peer Reviewへの協力をを行い、予定外の実習及び研究調査にも積極的に協力した。圃場の一部を活用し、船浦中学校の長期的な植林活動事業を開始した。林野庁と共同で絶滅危惧樹木の調査、マングローブの台風被害調査を開始した。(0.1点)				
管理運営	0.30	施設今年度予算計画及び運営の円滑な実施。西表研究施設の長期的な運営ビジョンの確立。長年放置されてきた老朽箇所の修繕及び廃棄物の廃棄。				0.30	施設運営は概ね良好に進められた。施設修繕と廃棄物処理も恙無く進捗。長期ビジョンとして海洋研究を一つの柱として施設整備を進める方針を定めることが出来た。(0.27点)				
進路指導	0.00	指導対象者無し				0.00	指導対象者無し				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	1点満点中0.9点 ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山平 寿智	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	博士前期過程(進化生態学特論)と博士後期過程(熱帯進化生物学)の講義をそれぞれ開講する。また、週1回の研究室セミナーを通じて、研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行う。特に、主指導をしている学生2名(後期1名前期1名)に対しては、適宜個別面談による研究指導も行う。		0.20	博士前期過程と博士後期過程の講義をそれぞれ開講した。また、週1回の研究室セミナーを通じて、研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行った。主指導の博士後期課程の学生1名および特別プログラム博士前期課程の留学生1名に対しては、適宜個別面談による研究指導も行った。	
研究	0.40	科研費による研究を実施し、学術誌等での論文2編、学会発表5件を目標に成果発表を行う。これと並行して、国立遺伝学研究所との共同研究の成果も学術誌に発表する。また、福岡女子大学との共同研究を新たに開始する。新たに科研費(基盤B)にも応募する。		0.40	科研費による研究を実施し、国内紙2編と学会発表5件の成果発表を行った。また、国立遺伝学研究所と名古屋市東山動物園との共同研究も遂行し、その成果を国際誌に投稿した。福岡女子大学との共同研究も実施し、投稿論文の執筆も行った。日本生態学会九州地区委員の任も遂行した。	
社会 貢献	0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れると共に、先方との窓口的業務を行う。また、名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し、飼育業務に関するアドバイスを行う。		0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れた。インターンシップでは各校との窓口的業務も行った。また、名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し、飼育業務に関するアドバイスも行った。	
管理 運営	0.25	西原研究施設の代表として施設長懇談会に参加し、部局の管理運営に携わる。また、熱生研全学委員として付属図書館運営委員会と研究推進戦略連絡委員の任を遂行する。加えて、理学部の教育委員会の委員の任も遂行する。		0.25	西原研究施設の代表として施設長懇談会に参加し、部局の管理運営に携わった。また、熱生研全学委員として付属図書館運営委員会と研究推進戦略連絡委員の任を遂行した。加えて、理学部の教育委員会の委員の任も遂行した。	
進路 指導	0.05	博士後期課程の学生は、本年度が3年次なので学位論文をまとめさせることを優先する。前期課程(特別プログラム)の留学生に対しては、後期課程への進学指導を行うと共に、母国の大学を訪問する等して帰国後のアカデミックポジションへの就職支援を行う。		0.05	博士後期課程の学生には、学位論文をまとめさせつつ、日本学術振興会のPD受け入れ先について適宜相談に乗った。特別プログラムの留学生に関しては、採集調査の折りに母国の出身大学の教員を訪問して、帰国後にアカデミックポジションへに就ける可能性について問い合わせなどもした。	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松崎吾朗	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.10	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、大学院における講義を実施する。医学部の免疫学および細菌学の講義を分担することにより、感染症制御に関する教育を行う。学外においては、非常勤講師として講義を行う。共通教育では、「遺伝子の話」を分担し、教養の生物学教育に参加する。		0.10	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、医学部の免疫学および細菌学の講義を分担することにより、感染症制御に関する教育を行った。また、医学部の基礎研究で3週間にわたり4名の学生の研究指導を行った。学外においては、島根大学医学部にて非常勤講師として講義を行った。共通教育では、「生命科学入門」を分担し、教養の生物学教育に参加した。	
研究	0.60	自ら研究を分担するとともに、学内外の研究者と共同研究を行い、その成果を英文原著論文として投稿し一流専門誌への採択を目指す。また、研究成果を学会において発表し、学会の場での討論により研究者間での情報交換と研究の改善を目指す。研究経費については、科学研究費補助金を含む外部資金獲得を目指す。		0.50	自ら研究を分担するとともに、学内外の研究者と共同研究を行い、その成果は3報の英文原著論文として出版された。また、研究成果を国際免疫学会において発表し、学会の場での討論により研究者間での情報交換を行った。研究経費については、科学研究費補助金基盤研究Bを獲得した。	
社会貢献	0.10	学外の遺伝子組換え生物等使用安全委員会および病原体取扱安全委員会に参加し、沖縄における適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献する。		0.10	沖縄科学技術大学院大学のバイオセーフティー委員会の委員長として、沖縄における適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献した。	
管理運営	0.20	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献する。また、熱帯生物圏研究センター分子生命科学研究所施設長として、センターの管理運営に積極的に参加する。		0.30	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の副委員長として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献した。琉球大学研究推進戦略会議のメンバーとして、琉球大学の研究推進に貢献した。熱帯生物圏研究センター分子生命科学研究所施設長として、センターの管理運営の中核として活動した。熱帯生物圏研究センターのサマースクールの企画、沖縄感染・免疫シンポジウムの企画を行い、研究の活性化に貢献した。	
進路指導	0.00	本年度は直接指導する学生おらず、進路指導は行うことができないため、本項目の目標を設定できない。		0.00	本年度は直接指導する学生おらず、進路指導は行うことができなかった。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		